

Tsuyama College		Year	2019		Course Title	化学Ⅱ
Course Information						
Course Code	0061		Course Category	General / Compulsory		
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 2		
Department	Department of Integrated Science and Technology Communication and Informations System Program		Student Grade	3rd		
Term	Year-round		Classes per Week	2		
Textbook and/or Teaching Materials	教科書：文部科学省検定済教科書「化学」（東京書籍） 参考書：ダイナミックワイド 図説化学（東京書籍）					
Instructor	MORITOMO Hiroki					
Course Objectives						
学習目標：物質の三態や物質に働く力，有機物の構造と反応，溶液の性質を理解し，現在，直面している深刻な環境問題等に人として適切な対応が取れるような物質観を養う。						
到達目標						
1. 状態変化に関して説明できる。 2. 気体の状態方程式がどんなものか説明でき，その計算ができる。 3. コロイドの運動学的性質（ブラウン運動など）を説明できる。 4. 有機化合物の構造と官能基，化合物の合成法について説明できる。 5. 目的に応じて器具・試薬を使って実験し，レポートを作成できる。						
Rubric						
	優	良	可	不可		
評価項目1	状態変化に関して，状態図も用いながら具体例を挙げながら自らの言葉で説明できる。	状態変化に関して，状態図も用いながら説明できる。	状態変化に関して，状態図も用いながら簡単に説明ができる。	状態変化に関して理解していない。		
評価項目2	気体の状態方程式を導出でき，記述される現象について説明し，またその計算ができる。	気体の状態方程式で記述される現象について説明でき，またその計算ができる。	気体の状態方程式で記述される現象について簡単に説明ができる。	気体の状態方程式の計算ができない。		
評価項目3	コロイドの運動学的性質について，身の回りの現象と結び付けて具体的に説明ができる。	コロイドの運動学的性質について，具体的に説明ができる。	コロイドの運動学的性質について，その例を挙げることができる。	コロイドの運動学的性質について，説明ができない。		
評価項目4	有機化合物の結合・構造・官能基および代表的な化合物の合成法について具体例を挙げて説明できる。	有機化合物の構造と官能基，代表的な化合物の合成法について具体例を挙げて説明できる。	有機化合物の構造と官能基，代表的な化合物の合成法について説明できる。	有機化合物の構造と官能基，代表的な化合物の合成法について説明できない。		
評価項目5	目的に応じた器具・試薬を自ら選択でき，適切な実験を行うことができる。加えて，レポートを自分の言葉で論理的に書くことができる。	指示通りに器具・試薬を用いて実験を行うことができる。加えて，レポートを自分の言葉で論理的に書くことができる。	指示通りに器具・試薬を用いて実験を行うことができる。加えて，レポートを指示されたとおりに書くことができる。	実験やレポートを指示されたとおりに実施し，仕上げることができない。		
Assigned Department Objectives						
Teaching Method						
Outline	一般・専門の別：一般					
	必修・必履修・履修選択・選択の別：必履修					
	基礎となる学問分野：無機化学・物理化学・有機化学					
	学科学習目標との関連：本科目は総合理工学科学習・教育目標「②確かな基礎科学の知識修得」に相当する科目である。					
	技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育目標は「（Ａ）技術に関する基礎知識の深化」である。					
Style	学習の分野：自然科学系共通・基礎					
	授業の概要：化学Ⅰに引き続いて，様々な化学的現象を理解するための基礎的素養を教授する。化学結合，生命と密接に関係する有機化合物，さらに気体や溶液の性質等を学ぶ。					
	授業方法：一週２単位時間を２時限連続で，原則として各ＨＲで行う。板書中心の講義であるが，適宜化学実験を行い，実験結果をまとめ，考察したレポートの提出を義務付ける。さらに必要に応じて，基礎的な問題に対するレポートや小テストを課す。					
	成績評価方法：４回の定期試験の得点をそれぞれ同等に評価(70%)し，各定期試験までの小テスト，レポートおよび授業態度をこれに加味(30%)して，その都度評価する。原則として，前期成績は中間成績との，学年成績は全結果の単純平均とする。試験の持ち込み可能物品は電卓のみ。					

Notice	履修上の注意：本科目は必履修科目のため、3 学年課程修了には履修（欠課時数は年間の出席日数の1/3以下）が必須である。 履修上のアドバイス：身のまわりで起きる現象を「物質」という視点から考えてみよ。物質の構造のイメージを持てるように学習せよ。常に疑問をもち、分からない事は放置せずに解決するよう努力せよ。暗記のみに頼るな、覚えるだけでなく「理解すること」が何よりも大切なことである。 関連科目：化学I（全系2年）、一般化学（先進2）、有機化学I（先進4）、有機化学II（先進5）、無機化学（先進4）、生化学（先進4）、化学実験（先進4）、物理化学（先進5） 受講上のアドバイス：本科目は環境エネルギー人材育成関連科目である。元素記号、化学式、量の単位など、教員から指示された基礎事項は憶える。記憶に頼って済ませようとせず、きちんと理解して応用力をつけようという努力がまず必要である。再試験は行わない。チャンスはそう多くない事を知って欲しい。 レポートは提出期限を守り、けじめを身につけること。 遅刻の取扱については、授業開始後15分を超えた時点で欠課とみなす。講義への不参加も欠課とカウントする場合がある。
---------------	---

Course Plan

			Theme	Goals
1st Semester	1st Quarter	1st	ガイダンス, 物質の三態	物質の三態について理解する。
		2nd	気液・液体間の状態変化	状態図を解釈できるようになる。
		3rd	気体の性質①	ボイル・シャルルの法則を説明できる。
		4th	気体の性質②	気体の状態方程式を説明でき, 計算に利用することができる。
		5th	気体の性質③	理想気体と実在気体の違いを理解する。
		6th	溶液の性質	溶液が示す一般的な性質について理解する。
		7th	コロイドの性質	コロイドとは何かを理解する。
		8th	前期中間試験	
	2nd Quarter	9th	試験返却と解説	
		10th	反応速度論①	反応速度の定義を理解する。
		11th	反応速度論②	反応速度式の意味について理解する。
		12th	化学平衡①	化学平衡の概念を理解する。
		13th	化学平衡②	質量作用の法則を利用して, 平衡状態における物質の量を計算できるようになる。
		14th	電離平衡①	弱酸や弱塩基の電離度を計算できるようになる。
		15th	電離平衡②	緩衝液の原理について理解する。
		16th	試験返却と解説	
2nd Semester	3rd Quarter	1st	後期ガイダンス, 有機化合物の特徴と分類	有機化合物とは何かを理解する。
		2nd	脂肪族炭化水素〔飽和炭化水素〕	代表的な炭化水素の構造, 性質について理解する。
		3rd	脂肪族炭化水素〔不飽和炭化水素〕	同上
		4th	官能基と酸素を含む有機化合物〔アルコールとエーテル〕	アルコールとエーテルの諸性質, 反応を理解する。
		5th	官能基と酸素を含む有機化合物〔アルコールとエーテル〕	同上
		6th	官能基と酸素を含む有機化合物〔カルボン酸とエステル〕	カルボン酸に関する諸性質, 反応を理解する。
		7th	官能基と酸素を含む有機化合物〔カルボン酸とエステル〕	同上
		8th	芳香族化合物〔芳香族炭化水素〕	芳香族化合物の構造, 反応性を理解する。
	4th Quarter	9th	後期中間試験	
		10th	試験返却と解説	
		11th	高分子化学	高分子有機化学の基礎基本を学ぶ。
		12th	化学実験①	安全に正しく実験を行い, 行った実験に関して報告書を作成できるようになる。
		13th	化学実験②	同上
		14th	化学実験③	同上
		15th	学年末試験	
		16th	試験返却と解説	

[illegible]